

防護壁封印

きゅんきゅん
最強
だ！

俺と六花の子供は
邪王真眼を持つ
賢者の炎の使い手だ

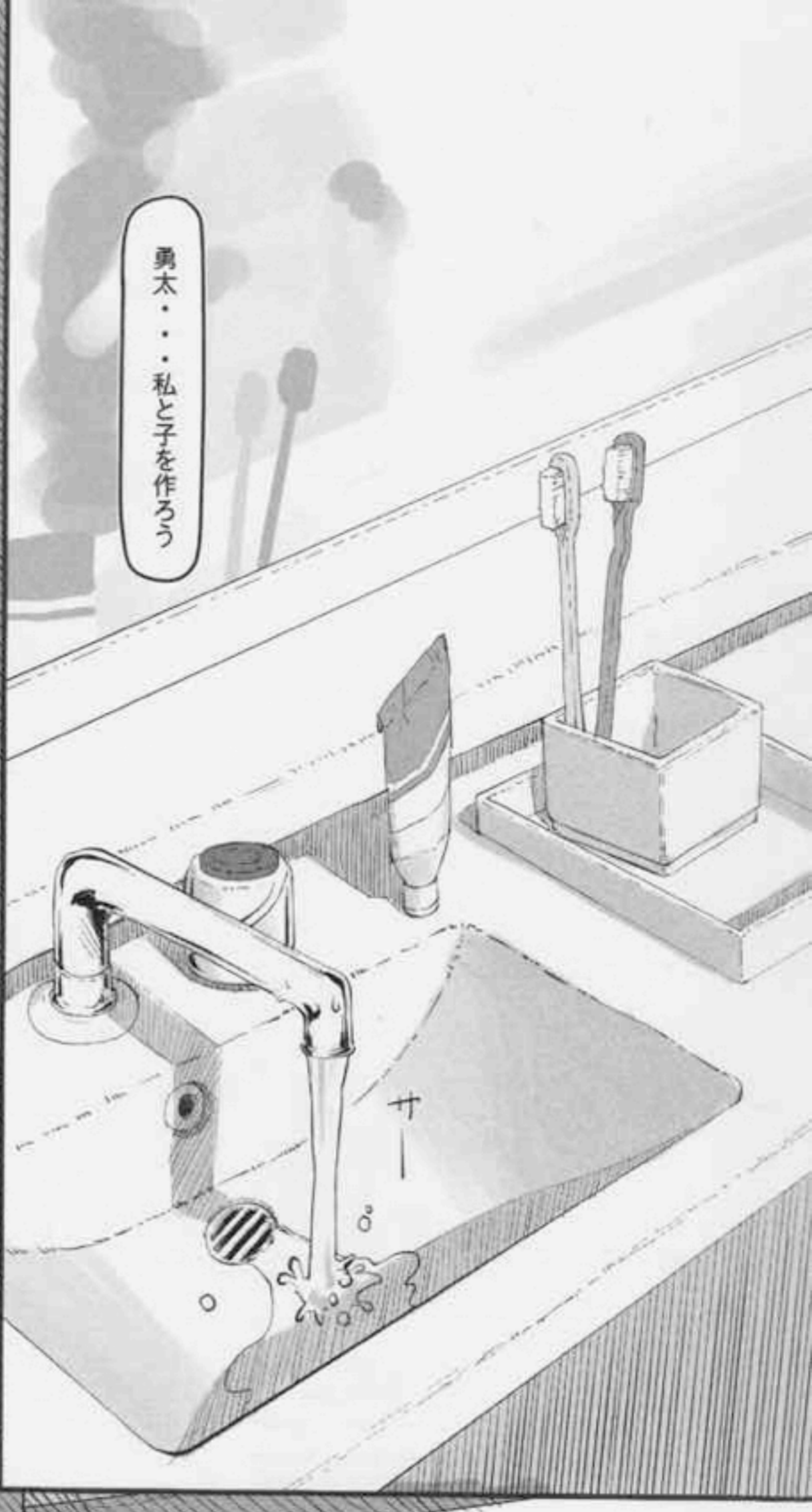
俺と六花の子供は



いいのか？

不可視境界線を見つけるには
もう他に手が無いのだ・・・

これは勇太にしか
出来ないこと



勇太・・・私と子を作ろう



ぎゅっ♡

わかった
六花がそれを望むなら――

勇太
ありがとう・・・

きっと――



ドミ
だから、勇太をちょうだい

勇太が死んでも、貴方とすこした証が
あれば、わたしはまだ頑張れる



それに・・・

俺と六花の子供は

邪王真眼を禁じ

醫の炎のせうきん

ちっちり

最強

だー!



六花：
もう学校終わったのか

ううん
勇太が心配だから最後の1時間
抜けて来ちゃった

そんなじゃまた赤点だぞ...

あう...
だってゆーたいないと
つ何だかまんないし...

頼まれたの買ってきた
サンキュー

具合は？
半日寝たらほぼ
マシになったかな

じゃ... 私がみてやろう

え...?







これも人の身を黒檀に染めし者の末路——覚悟はしていたさ

もって後三日といったところか……



勇太……口から血が……

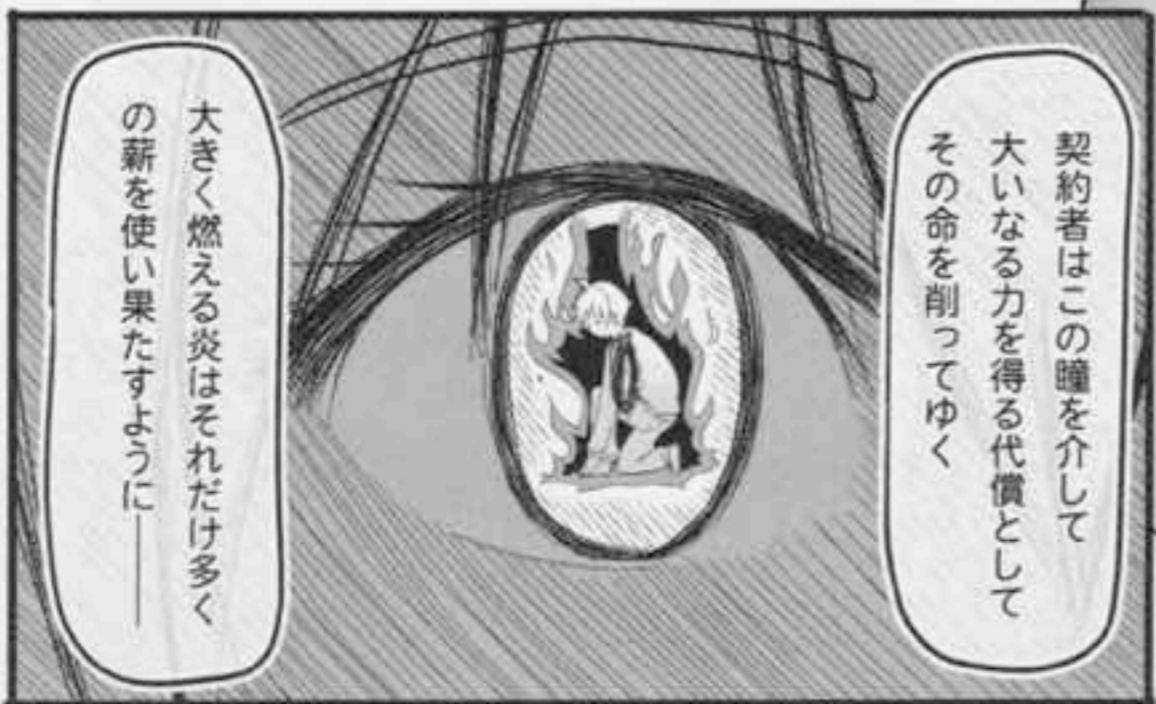
フッ
知られてしまったようだな



すまない……
今まで黙っていたのだが
ダークフレイムマスターには
全てお見通しだったか



その血は契約者として邪王真眼に
選ばれし者の宿命



大きく燃える炎はそれだけ多くの
薪を使い果たすように

契約者はこの瞳を介して
大なる力を得る代償として
その命を削ってゆく



口ん中汚いままちゅーしたの
バシてないみたいだし
中二病のノリでやり過こすか



さあ言え 邪王真眼

俺にどうしてほしい？

この燃え殻
最後の煙きで何を燃やす？

俺がこの程度でその黄昏の瞳から
から逃げ去ると思ったか？

…で？



なるほど

差し当たりそんな所であろう
別に驚くにも値せん

言い出したの俺だし
乗ってやるか…

ガラ
ガラ



ヤ……が……

あ……
この流れなら
いけるかも……



ひっ

あう……

あ……え……

きゃん♡



遺志を繋いでいくことていつか
いつの日辿り付けるかもしれない

その子が成らぬなら孫が
ひ孫が

だが、我等に出来ずとも
その子が

ダークフレイムマスターが倒れば並行世界を
見つけるのは極めて困難となる



こ……こ子を作ろう

ゆーたとわたひで

え……それって……

こ、言葉の通りだ



ドキ

な、ならば一つ頼みがある
勇太にしか出来ぬことなのだ

協力してほしい

手を

ドキ



もう他に手が無いのだ

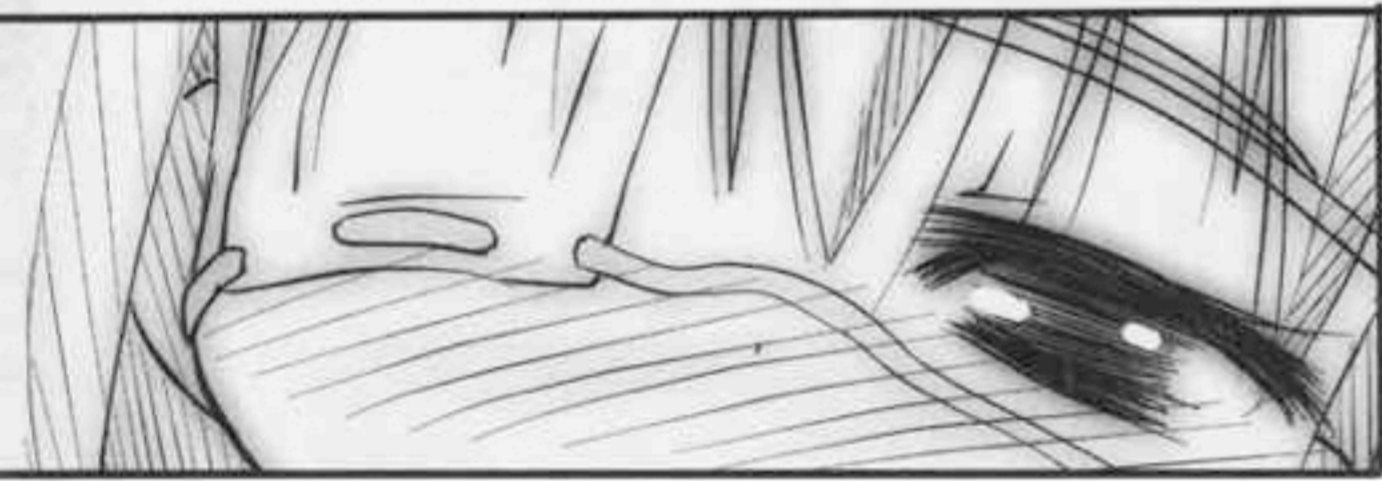
頼む

本当にいいのかな？

その子はきつと最強の使い手となる

だから……

邪王真眼と闇の炎の親和性は極めて高い



ただいま

ただいまー

ガチャッ









待ってゆーた

ニじヤヤタ

部屋…シロク…



へんじゃないさ 六花らしくていい

うん… ってこの方がかっこいいから… へん…かな?

六花は黒い下着つけてるんだ

はうり





あ...さーは...ちあ

くあ
ゆび...だめえ...



ゆーた
え...



見ろよ俺の指
六花のでこんな

かあああ

とろ



えろいのは六花だろ
俺のだってこんなに...

触ってみろよ

...うん



ゆーたがえっちいことしてくるから
私のお気に入りがべとべとになってしまった

いじわる...

う...



本当は俺ん家出た時からこう
 スポンに形が出てたから、途中で誰かに会えば一発でわかる所だったんだ
 六花は気付かなかったのか？



こ…れ…？

硬くて…熱い…
 これが男の…



だって私もその時、すごい下着に染みちゃって、ただゆーたの握る手だけがすごく熱くて何も考えられなかったから…



じゃあ、次に俺がしたい事わかるか？

わ…ゆーたの裸だ…

よ、よゆー…だ…



とーぜんだ
 我らは闇の靈魂を共有する魂のソウルメイト
 邪王真眼を介して感覚を共有しているのだから、同じ感情をもつのは自然なことだ

なーんだ。
 俺ら同じこと考えてたのか

ねえ
勇太はわたしのこと
好き？

スルッ

ドクッ

ビクッ

そんなの、魂を共有している
んだから、言わなくてもわかる
んじゃないか？

そ、それは…
…そう…だけど…

あ〜…
やめたのいいわ

魂を共有しているから、ゆーたが大丈夫
だと思えば大丈夫なのだ
いちいち聞かなくてもいい

どっちだよ…

ひたっ

…いいか？

こめん、意地悪が過ぎた
六花——好きだぞ

わたひも

ゆーたしゅひい だいしゅひい♡

chu♡

ん…
き…っ…

じゅんじゅん

びん

あ
ん
ん



ん…… 入った……けど……

大丈夫？

こ……これくらいは、おやうううううううう……

……本当？



ほほお……さすがは邪王真眼
それでは全力でやらせてもらうぞ

うそそうそ
実はけっこう痛いんで
ゆっくりで……



へ、並行世界での戦いで、我が左腕が光の守護獣に
食いち切られたのに比べれば、これなの全然……

それって闇の眷属の
封印って言うってなか
ったっけ……



……ったく

びびっ

こんな時までかっこつけ
てもしょうがないだろ

あう……だつてえ……



ホラ

六花見えるか？

今、俺ら繋がってるんだぞ、本当に

おおく…
ホントに…
本当に



まあ

その様子なら六花も
落ち着いてきたみたいだし
そろそろ動くぞ

あ…うん

でもその前に

またキスして



どろっ

それは

んむ…



ゆーたわかる？

悠久なる時、幾星霜もの時、無限に連なる並行世界
を超え、我らはずいに再びひとつとなったのだ

ぎゅ♡

いやいや…
もうそういうの
いいから…
っていうか意外と
余裕だな



まだ痛い？

ちょっと・・・
でも大丈夫・・・多分

ん、ん

ん、ん

ん、ん

ん、ん

ん、ん



六花、携帯鳴ってるぞ

ブーブー

え!?



ほい

えー
ええええ



もしもし

ん、ん、ん

六花?
六花ならそこにいるよ

何でダークフレイムマスターが出るデスか
マイマスターはどうしたデスか



息が荒いデスね…

まさか光の勢力と交戦中デスカ?

そ、そんなところだ

だが心配ない

ダークフレイムマスターもいる

凸守には引き続き並行世界
探索に専念してほしい



あ、マスター
今、暇デスカ?

すまない
今、取り込み中だ



くはっ

ひん

どーしたデスカ?

な、なんでもな

びん

ひん
びん
びん

びん



マスター、まさか怪我を！

も、問題ない
凸守は引き続き並行世界
の探索に専念してくれ
以上、連絡終わり



ま
それもそーデスね
今日は帰るデス

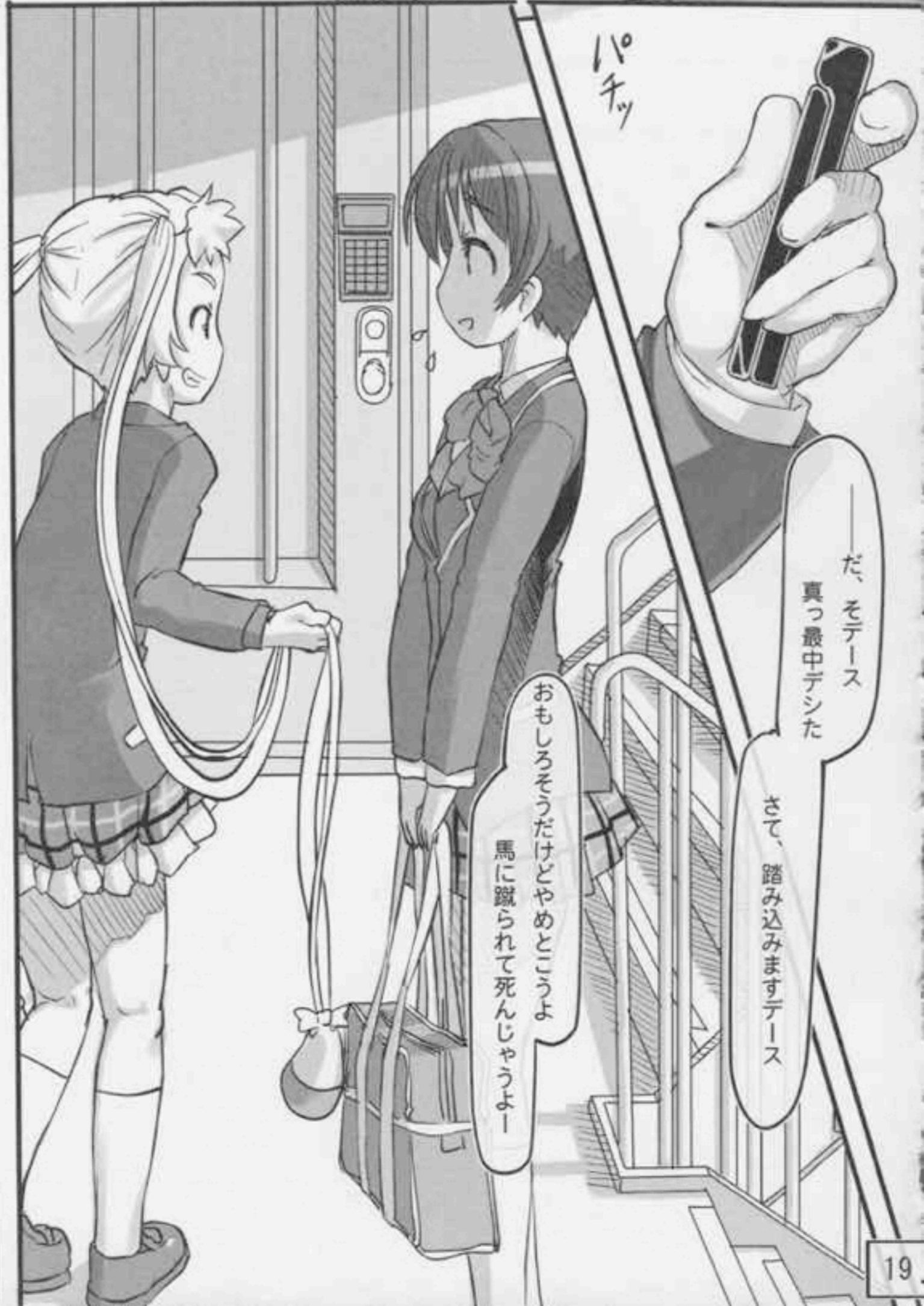
うん



おっ？



あんたら、確か六花の…



パキッ

だ、そデース
真っ最中デシた

さて、踏み込みますデース

おもしろそうだけとやめとこうよ
馬に蹴られて死んじやうよー



何かへんなの…

何か…



ゆーたの意地悪
こんなの凸守に知られたら
マスターとしての威厳が…

そんなのないだろ
最初から
あう…

それに少しは痛みを
忘れただろ？

うん…まあ…でも…

でも…



あ♡
いたくない、いたなくなっただけど
なにかわたしの中からくるよーな…

ヌクッ
ヌクッ



六花 いいんだな？
このまま出しちゃっても
本当に出来ちゃうかも
しれないんだぞ？

うん♡

いいよ
ゆーたなら
ゆーただから



それってイキかけてるってやる
じゃないのか？

わかんない・・・
ゆーた・・・怖いよ

大丈夫。それが普通だから
でももう少し耐えろ
俺ももうすぐっばいから...

うん♡



六花

ゆーたあ...

ん♡

chu♡



ゆーたのころも汁
ちよつらい
いっほひ

うっ♡
いっほいひい

ほっ♡

六花...



あ...

じ...

きゅんきゅん



ゆーたしゅきい
だいしゅひい

六花...俺も



六花...
受け取れ

きゅんきゅん
きゅんきゅん

久しぶりだから、ちゃんとできるか
ちよつと不安だったの

いほ

よかった



ん
よくわからんけど、こんなモンじゃ
ないのか?

わたし うまくできたかな?

ゆーた



ん?



で、でも今
久しぶりって言ったよな???

わたしゆーたとしかしたこと
ないよ?

へ?

ふた

わたし

六花って付き合ってた人
とかいたの!?

ええっ!? ちょ!?

久しぶりってこ!



はあ?

あつ



あの紺碧の塔で交わし市し契

あの夜 あの時 あの場所で

私は貴方の優しさを忘れたことはない

幾星霜の彼方

我らが生き別れる前夜

光の勢力との最終決戦前夜

まだ記憶が戻ってないのだな
ダークフレイムマスター



え...?



後書：2期やらないかな
イチャラブ成分が足りなくて壁が余る…
発行：黒魔法研究所/wizakun
mail：wizakun@hotmail.com
pixiv：662861
印刷：K9

